

かたつむり

鈴木三重吉

青空文庫

トウロツトのお母ちやまは、朝、いろんな人たちと一しよに、馬車でそとへお出かけになりました。ド・ヴレーさんといふよそのをぢさまが、馬のたづなをとり、もう一人のをぢさまがラツパをならして、みんなでたのしさうに出ていきました。トウロツトは、ちひさくて、足手まとひになるので別荘にのこされました。

トウロツトは、女中のジャンヌと二人であそぶつもりでゐたのですが、お母ちやまはトウロツトがたいくつするだらうとおもつて、先生のミスに、来てやつて下さいとおたのみになつたものです。トウロツトは、あゝあと、がっかりしました。お母ちやまは、トウロツトにさうだんもなさらないで、いやな人をおよびになるのですからたまりません。

ミスはお庭のおくのベンチにこしかけて、偉大なお鼻の上にめがねをのつけて、顔中のすぢ一つさへうごかさないうで、自動器械のやうに、さく／＼とご本をめくつてゐます。トウロツトは、ミスにしかられないやうに、何かわるくないことをして、時間をつぶさなければなりません。それでさん／＼かんがへて、けふはお庭の中をくはしく見て歩いてみ

ようとおもひつきました。

今は、庭もかなりあれてゐて、砂利だの、やせた芝のごみだの、木のきれはしなぞが、ちらかつたりしてゐますが、でもまん中どころにあるバラの木だけは、人の目を引きつけないではおきません。とてもすばらしい、いゝバラの木で、とき／＼花がさきます。けふも、ちようど一つ、大きくさきひらいてゐます。トウロツトは、その花をうつとりと、いろいろな方がくからながめました。それは何ともいへない、きれいな花です。

と、そのうちに、きふにトウロツトの目は、大きくまるくなつて、じつと一ところを見すゑました。ほう、こはいものがある。バラの葉の上にかたつむりがのそく／＼うごいてゐます。おゝ、いやなやつ。うしろにきらく／＼したあとをひいて、頭を右にまはしたり左にまはしたり、つのを出したり、ひつこめたりしてゐます。ちつとも、ゑんりよなんかしてゐやしません。トウロツトは、しばらく、じつと見つめたのちに、するどい声をたてゝミスをやびました。

「ミス、来てごらんなさい。」

ミスは大きな鼻を上げ、ご本をかゝへて、四またぎでトウロツトのそばへ来ました。

「何です。」

トウロツトは、おゝこはいくといふやうに、ゆびさしました。

「かたつむりぢやありませんか。」

それはわかつてゐます。トウロツトが見たつてかたつむりです。

「この軟体動物は植物に害を加へます。殺してもかまひません。」

トウロツトは、けつこうなおゆるしをいたゞきました。しかし、こいつをつかまへるのはたまりません。とてもいやなことです。

「とつて下さいな、ミス。」

ミスは、たちまち、けはしい目つきをしました。

「なぜわたしがそれをつかまへるのです。なぜあなたがつかまへないのです。それがバラを害する以上は、あなたがつかまへるつかまへないは、あなたの幸福にえいきようするのですよ。あなたの幸福を保護するのは、あなたでなければならぬはずです。」

トウロツトはためいきをつきました。ミスが一ど言ひ出したら、いくら口ごたへをしたつてだめです。で、トウロツトは手をのべかけて、ひゝい、といふやうにその手をひつこめました。しかししまひには、とうくかたつむりのからの上にゆびをつけました。かたつむりは、びつくりして、すつかり家うちの中へひつこんでしまひました。もう何も出ては来

ません。トウロツトは、ずっと息がらくになりました。しかし、けつきよく同じことでした。いくら何にも出ないからつて、じたい、こんな動物は、とてもすきではないからです。

トウロツトは、つかみ上げはしたものの、さてどうしたらいゝかと、もじゝしました。あゝ、いゝことがある。トウロツトは、それをそつと、へいごしにおとなりのお庭の中へなげこまうとおもつて、手をうしろへふり上げました。すると、ミスが、いきなりくびすぢをおさへつけて、こはい声で言ひました。

「トウロツト、ひとの不幸のなかにじぶんの幸さいはひをもとめることは禁じられてゐます。この動物をおとなりへなげれば、おとなりの植物を食べます。そんなことをするのは不正です。」

「ぢやア、どうすればいゝの？」

「おつぶしなさい、足で。」

トウロツトは、こまつて、手の中のかたつむりを見つめました。足でつぶす……ふう、このからが、ぐしやりとなるのをかんがへるだけでも、こいつの肉が、くつの底でぐちやぐちになるのをかんがへるだけでも、むねがわるくなつて来ます。あゝ、井戸の中へなげこまうかしら。さうだ。その方がよつぽどましだ。

トウロツトはさうしようときめかけました。しかし、それも何だか気がひけます。だつて、あはれなこのかたつむりは、何もわるいことをしたわけではありません。こいつは植物の葉なぞの上をうごいて、日光をあびて、ぐるりと一まはりして来て、お食事をするのがたのしみなのです。きつとさうです、でも、バラを食べる。バラに害をする。やつぱり、ばつしてやらなければいけない。

しかし、だれだつてもものを食べます。このかたつむりだつて、バラの上をはひまはつてゐるのは悪気があつてではありません。おなかゞすいてゐるからです。からだをやしなはなければならぬからです。それをばつしるといふのはひどいやうです。

でも人は、を牛や羊や小羊を殺します。あんなに、かなしい声でなく、かはいさうな小羊をも殺します。たのしいうたをうたふ森の鳥をでもころします。そんなものたちこそ、かたつむりなんかより、よつほどおもしろい動物で、そして、わるきなんてものはちつと

ももつてはるません。それでも人はそれをみんな殺すのです。だから、このかたつむりだつて……

トウロツトはなげつけて足でふみつぶさうとして、手をふりあげました。でも、やつぱり手をおろしました。手の中にはからをにぎつてゐるのです。

さうだ、人はよくどんな動物でも殺すけれど、それは食べるために殺すのだ。人間のためにいるから殺すのだ。せんにお父さまは、よそのいたづらつ子が、ぱちんこで小鳥をうちおとしたときに、その子の耳をおひつぱりになつたことがある。お父さまは、たいそうおおこりになつた。でも小鳥はくだものをつつきます。羊だつて牛だつて草をたべたり、きれいな花をむしつて食べたりします。いつかもめ牛が、一どにマーガレットの花を五十七ばかりもひつこぬいたことがあります。しかし、そのくらゐのことでその牛を殺していかしら。

トウロツトは、あゝでもない、かうでもない、こねくりかへしてかんがへたあげく、どうにも、とりとめがつかなくなつてきました。すこし泣きたくもなりました。そして、つまるどころ、このかたつむりをふみつぶすといふことは、大きな罪をかすやうな気がしてなりません。しかし、こいつを、このまゝにしておけば、バラの木がいたためられるの

です。あゝあ、どうしたらいゝだらうと、トウロツトは、ひどくこまつて頭がぼうとなりかけました。

でも、かういふことだけは、ほんやりなりにも言へるやうです。羊を殺すのはわるい。しかし食べるためになら殺してもわるくはない。かたつむりをころすのはわるい。でも食べ……

トウロツトは、びつくりして、じつと手の中のかたつむりをながめました。おゝいやだ。そんなことは、とても出来つこはない。おゝ、いやだ。

ミスはとほくから、あざけるやうなようすをして見てゐます。トウロツトがどう結末をつけるかと、ひざの上にごほんをのせて、そり身になつて見てゐるのです。

三

そのミスが、ふいに、針にでもつきさゝれたやうに、とび上り、かなきりごゑをはり上げて、ご本をすつとばしてとんで来ました。

トウロツトは、かたつむりを手でぐいと、のどのおくにおしこんだのです。そして、目をつぶつてのみこんでしまったのです。

「まあ、とんでもない。……ばかなことを。……どうしてそんなむちやをします。ほんとにあきれた。なんておそろしいことをするのです。」

ミスはひつくりかへるほどびつくりして、お部屋へかへつても、フランス語とイギリス語を、ごつちやに、くちびるの上でぶつけ合えました。トウロツトは平気で、にはか雨が来たのを、けろんとして見てゐました。

しかし、じつをいふと、胃ぶくろの中がどうなるか、それがすこし気がりでした。いやにグウグウと、へんな音がします。きつとかたつむりが、のそく歩いてゐるのにちがひありません。かうおもふとすこし胸がむかつて来ました。

でも、まあそれだけのことです。かたつむりはどうせ消化されてしまふでせう。

そこでトウロツトは、雨があがると、またお庭へ出ました。そして、まへよりもつとふかい愛情をもつてバラを見入りました。あはれなかたつむりを、むごたらしくふみつぶしもせず、そしてこのうつくしいバラをも、すつかり保護してやったことが、トウロツトにはとてもく〜とくいでした。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系 第一〇巻」ほるぷ出版

1978（昭和53）年11月30日初刷発行

底本の親本：「鈴木三重吉童話全集 第五巻」文泉堂書店

1975（昭和50）年9月

初出：「赤い鳥」赤い鳥社

1929（昭和4）年3月

入力：tatsuki

校正：林 幸雄

2007年2月19日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

かたつむり

鈴木三重吉

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>